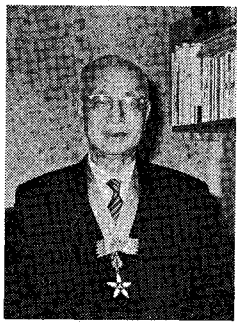
# 受　賞　の　感　想

名誉会員　工博　鈴　木　雅　次



鈴木雅次氏

自宅書斎で写す・国建協提供

たとえ私の功績はささやかでも，敗戦によって，日本が投げこまれた奈落の底から，再びはい上がって，世界の奇跡と見なされる今日の繁栄を具現するための基礎的条件を国土の上に，最も有効に整備し来たった土木関係者全般の功績は，誠に大きなものがありました。

それらが世間から，広く認められて，その顕賞のセレモニーに際し，比較的年寄りの私が呼び出されて，この過分の光栄に浴することと相成ったのでありましょう。

先輩の中には，私よりすぐれた仕事をなされた方がおられましたが，まだ土木の方面に，文化受賞の「門」が開かれないうちに早くおなくなりになって，ただ私だけが長く生き残っていたため，その門通過第一号に，ご指名を受けたのであります。

だが一度わが方に開かれた門からは，今後その顕賞にあたいする立派な業績の人々が，つぎつぎに世に出てゆくことに間違がないと思います。

一般に，あらゆる職業の専門が目ざす究極の目的は，地域住民あるいは国民，さらに広くは，人類が願望する「福祉」に何らかのかたちで寄与し貢献するもので，あることに変わりがありません。換言すれば，そのウエルフェヤーの確保と増進という一つの目的達成のための手段として，幾つかの職業の専門がこの世に存在するのでありますが，この場合に，わが土木技術あるいは土木工学においては，この「目的と手段」との関係を，比較的はっきり説明ができる点に大きな特長があると思います。

今や一般に各方面の分野で，それぞれの専門に関する哲学的追求が流行していますが，その解明のしかたを単に概念的の記述に終らせず，進んで計量的でユニークなものが要求されているようです。

それが土木の場合，その施設の整備によって生ずるベネフィットがウエルフェヤーの中で，カネで計れる部分である「貨幣的福祉」へ波及する効果の方なら，その源泉として代表される所得を発生するための生産振興に大きく寄与するいわゆる「生産基盤の整備」の土木事業からの追求は可能だし，またカネでは計れない「非貨幣的福祉」への影響量も「生活環境の整備」の土木事業の方から，間接的の判定ができる。このように，土木方面における効果論の計量的の開発が，今後進むにしたがって土木工学が万人欲求の福祉増進に対し，いかに多く貢献する専門の分野であるかを，一般世人がいまよりいっそう明確に理解し認識できるようになるはずですから，われわれの後に続く人々の顕賞は，今後いっそうその多きを加えるものと思います。

また，今後における受賞の機会増加のいま一つの理由は，土木事業激増の展望にも根拠があります。昭和 42 年 11 月 29 日総理官邸で開かれた経済審議会において，地域開発部会長の私から報告いたした「わが国 20 年後のあるべき姿での目標は，国民総生産において今の 4.6 倍，国民の所得が 3.9 倍でありましたが，かかる高度の経済発展とすばらしい水準の生活福祉を，確実に具現させるために，今後先行すべき 20 年間の累計投資は，官民総計 410 億円（35 年指数）と見積りました。しかしその中から，わが土木方面にまわる金額は別に提示しませんでしたが，私個人の見当では，おおよそ 110 兆円と推測しています。そのようなぼう大な仕事消化の責任を負わされた土木関係者は，今後ますます多忙になるでしょう。またその巨大なる投資の効果が，最も有効に発揮されるためには，学究にたずさわる側の人々に対しても，卓越せる研究成果の多くが期待されます。

よってこのたび開かれた受賞の門をとおる土木家は，今後その跡を断たないでありましょう。

以上のごとく，土木界の将来にとって，まことに望ましき希望を与えることの契機を，新たに造り出されるのにこのたび多大のご尽力をなされた方々に対する土木人一般の感謝の気持は，後年にも長く尾を引いて，消えないでしょう。そして私事ながら，それらの方々が私に示された好意のご支援に対しては，何んともお礼の言葉がないほどに，恐縮いたしております。